

J2.992:9

9 99

* Yorobōshi

67/14
C

弱法師

弱法師

番組順 四番目太鼓
稽古順 謡及能・習

季一二月

所一攝津国
天王寺

曲趣

謡言によつて父子の間を隔てられし哀話は、古来其例乏しかず。

この曲の主人公の如きは、悲歎の極盲目と成なり果てたる者にて、歎く哀れに痛ましく物語り多し。然るに能の作者は其痛まききを文字より観客の目情を集むと志せらるゝ。悲慘に沈淪しなかり、徒らに人を恨み身を叩つ癡態を演ぜず、飄然として洒脱の境を開ける遊狂の如く描き出し、以て逃避的の時代好尚に應了たる者の如く、なごさうに揉り小唄を吟さむ如き華やかさたるものに到らずして、よく盲人の寂し孤獨感を離れざるを、作者用意の在する所なり。

シテ登場の始は、縷々として我が命を許さる如く觀られ共、其寂しき境遇を如実に物語りながら故て沮喪せざる悟道の寛容あふし。斯る裡にも一道の光明は認めらるべき説き、陰性の樂さきに浸りたる身なぞし。

ワキとの問答となりて、著しく氣尾く快活に、廢人の卑屈なく、長者を揶揄する如く余裕を示す。これ作者の手ぬたなり、此際さかも矛盾なく、既に初めよりその用意あればなり、落日を拜む一畝と局面開け禪味を以て万目青山は心に在りと安んじなかり、俗界に在る身は貴賤の人に行當る恥なきを得ず。興に乗じたる氣勢挫け、却て情味深き父子再会の喜びに達す。抑揚波瀾甚だ巧みなるものと云ふべし。

一九四五年五月 戦時下ポスト 録音於
喜多流謡曲之内 柳本暢弘 写之

弱法師

坐順

(面正)

して(俊徳丸)
わき(俊徳丸の父通俊)

わき落着イテ

かやうに人者は河内の國高安の里左衛門の尉

通俊と申す者にていさでも某子を人持ちて

いささる人の讒言により暮に追ひ失ひてい

餘に不便に存じし程に天王寺にて一七日

施行を引きし。今日満参にてし程に申し附け

弱法師

シテ
少く
くれず
未だ
静かに
誰か

サシコエ

施行を引おせばやと存（狂言いか）一（和）出で入（静かにカ、リシ）

の月を見ざれば明暮の夜の境を得が知らぬ

難波の海の底ひ無く深き思を人（ナニワ）や知る（オ）

それ鴛鴦の衣の下には喜ぶる思を悲し（ウツク）

比目（ヒボク）の枕の上には波を隔つ愁（ウレイ）有り況（キヤ）や心

有り顔なる人間有（ヌ）為（井）の身となりて憂（ウ）き年（トシ）

ツキ
月の流れたは妹脊の山の中に落つる。吉野の川
のよや世も思ひも果てぬ心な。あきこまーや

前世に誰をか厭ひけ。今又人の讒言により。

不孝の罪に沈む故。思の涙かき曇り。盲目と

まくなり果て。生をも更へぬ此の世より。中有
の闇に迷ふなり。本より心闇は有りぬ

弱法師

小謡
かによつて

二一
ア
傳へ聞く彼の一行の果羅の旅彼の

一行の果羅の旅闇穴道の衢にも九曜の曼陀

羅の光明赫奕として行末を照らして給ひける

とや今も末世といひながらさすか名におふ

此の寺の佛。法最初の天王寺の石の鳥居と

なれや。立寄りて参らんとし立寄りて参らんと

わき^上ハツキリ立^{キサ}ニギ^ジシヨオ^{マコト}ノドカ^{スデ}
強^{狛子ニ合ハズ}頃は二月時正の日真に時も長閑なる日を得

頃^{頃ハ首}は首^{少し延に}て普き貴賤の場に施行をなして勸めけり

一^{静カニカルク}げに有難き御利益法界無縁の大慈悲ぞと

踵^{クビス}を接^ツぞ君集^{クンジュ}するやこれに出でたる

え^{コツガイニシ}巧人いねさま例の弱法師な又我等

に名を附けて皆弱法師と仰^{オセ}あらずや和^{サラシ}げに

げいも
さうしち
もゆた
運びあ
なり

モオモク

も此の身は盲目の足弱車の片輪ながら
踊めきありければ弱法師と名づけ給ふは理
なり げに云ひ捨つる言の葉までも情有

りげに聞ゆるぞやまづく施行を受けし

受け参らせしはんや花の香の聞えし

わき
おこれなる離の梅花が弱法師が袖に

散りかゝるぞとよ　　うたてやな難波津の

春ならば唯木の花とこそ仰あづきに。今は

春も半ばぞかり。梅花を折て頭に挿はさ

まざれども。二月の雪は衣に落つ。あら面白の

梅の匂やな　　げに此の花を袖に受くれば。

花もさながら施行ぞとよ　　なかくの事

わき
上
ミナ
皆成
ジヨオ

佛の犬慈悲に
 汚れと施行に連なりて

わき
土
手を合はせ
土
袖を廣げて
土
同者
土
花をさへ受
土

初音
どろろ
はら

くも施行の色々に。受くる施行の色々に。句(ハコビ)

ひ来にけり梅衣シメダマゴロモの春なれや難波ナニワの事か法ノリ
なうぬ遊び戯れ舞ひ謡ふ誓言の網には洩る

まづき難波ナニワの海ぞ頼タノりきけにや盲龜モウキの
 我等ワレガまづ見る心ココロする梅ウメが枝エの花ハナの春ハルの長ナガ
 閑けさは難波ナニワの法ホウにも洩れ難波ナニワの法ホウに
 にも洩れど。
 打鐵ウチテき矣ヤ（リ）ニサリテアツニササテン
 序（おき）それ佛（お）日（に）西天（てん）の雲（う）に隠れ。
 慈尊（お）の出世（し）まだ遙（と）三會（くわ）の曉（あ）未（ま）だなり
 然るに此（こ）の中間（かん）に於て何と心（こころ）を延ばす
 本より

同音

ウケハミ

ジヨグウタイシ

これによつて上宮太子、國家を改め萬民を教へ

佛法流布の世となつて普く御法を弘め給ふ

則ち當寺を造建立あつて始め、僧尼の

姿を現し、四天王寺と名附け給ふ

の御本尊は如意輪の佛像救世觀音とも申

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

すゝか太子の御前生震旦國の思禪師にて

わたりせ給ふ故。出家の佛像に應じつて今
日域に至るまで佛法最初の御本尊と現れ
給ふ御威光の真なるかなや末世相應の御
誓然るに當寺の佛閣の御作の品々も亦
梅檀の靈木にて塔婆の金寶に至るまで
浮檀金なりとかりや萬代に澄める亀井の

水までも

同音

水上清き西天の無熱の池水を

受け継ぎて流るるき代々までも五濁の人間

を導きて濟度の舟をも寄するなる難波の

寺の鐘の聲異浦々に響き来て普き誓

満潮のおし照る海山も皆成佛の姿なり

わき
シツカリ

これなる者を如何なる者ぞと思ひて少くば

某^{シガシ}が追ひ失ひし子^{シガシ}はいかに思の餘りに

盲目^{モオモク}となりてふ。あらず便^{（柔カ）}と衰^{フビシ}てふや。晝は^{（氣ラズ）}

人目も定かに少^{シガシ}ば夜に入り某^ナと名^ナ宣り高安

へ連れて歸らばやと存^{（改テシカク）}じ。いかに弱法師。

日想觀^{（シ）}の時節^{（ソオグ）}なれば急ぎ参りて^{（金）}げに

げに日想觀の時節^{（金）}なると。盲目^{モオモク}なればそな

たとはかり心シツカリあてなる日に向ひ東門トオモンを拜み

南無阿彌陀佛 ちきカシやあ東門とは謂イはれな也。

こは西門サイモンの石の鳥居よ あら愚カシや天

王寺の西門を出で極樂の東門に向ふは

僻事ヒガコトか げにチても難波ナニワの寺の西門を

出づる石の鳥居の 阿字門アジモンに入つて

わき
阿字門を出づる

彌陀の御國も

極

樂の東門に向ふ難波の西の海

入日

イロエ
の影もまがふとか

イロエ
イ合

あら面白や我盲

目とならざりし前は弱法師が常は見馴

れ境界なれば何疑も難波江に江月照

ら松風吹き永夜の宵清何の為す所ぞや

△は音
ドコロ

地詠めは
の二句確り

ぬ下次々狂
びの心より

同音

住吉の松の木間より眺むれば
月落（中）ち（上）人（人）

かゝる淡路島と
詠めは月影の今は入日や落ちかゝるらん

日想観なれば曇も波の淡路繪島須磨明

石紀の海までも見えたり見えたり満目青

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

山は心になり
お見るぞとよ見るぞ

とよ 同音 (サラリ) 上
さそ 難波の海の致景の数々 ヤラ

南はさこそと夕波の住吉の松原 同音 上
東の

方は時を得て 春の緑の草香山 同音 上
北

はしづく 難波なる 同音 上
長柄の橋の徒に

かなた かなたと 歩く程に 盲目の悲しきは

貴賤の人に行き合ひの轉び漂ひ難波江に

足許はよろしくと^{ヤス}け^{トリ}に^オ眞の弱法師と^{マコト}
人は笑ひ給ふぞや^{ヤラ}思へば^心恥づか^心やな今は^上
狂ひは^心今^心よりは^心更に^心狂は^心ど^心今^心は^心
は^心や夜も更け人も^心静まりぬ^心如何なる人の^心
果やらん其の名を^心名宣り^心給^心や^心思^心ひ^心
寄らずや誰なれば^心我が^心古を^心聞ひ^心給^心ふ^心高安^心

の里なり（ト）俊徳（ハ）丸が果なり（ニ）
同音（ハ）さ（ハ）は嬉（ニ）

やれそは父高安の通俊（ハ）よ（ニ）
同音（ハ）そ（ハ）も通（ニ）

俊は我が父の其の御聲（ハ）と聞（ニ）く（ハ）よりも胸打騒（ハ）

ぎ惘（ハ）れた（ハ）同音（ハ）は（ハ）いかにと（ハ）俊徳（ハ）は（ハ）

親（ハ）ながら恥（ハ）づ（ハ）み（ハ）と（ハ）あらぬ方（ハ）へ逃（ハ）げ（ハ）れば（ハ）

父（ハ）は追（ハ）ひ附（ハ）き手（ハ）を取り（ハ）て何（ハ）をか包（ハ）む難波（ハ）

弱法師

十終

寺^{デラ}の鐘の聲も夜^{マギ}紛れに明^{（ミツ）}けぬ前^{（サキ）}にと誘^{（イサナ）}ひ
高安の里に歸りけり高安の里に歸りけり

3 Rev